

2021（R3）年度の浜松市域の温室効果ガス排出状況について（速報値）

1 2021（R3）年度の温室効果ガス排出量

- 本市の2021年度の温室効果ガス排出量は、4,938千t-CO₂であり、基準年度（2013）比14.0％減少でした。前年度比6.3％増加しました。二酸化炭素は基準年度比17.3％減少に対し、二酸化炭素以外は基準年度比44.6％増加でした。二酸化炭素以外の増加の要因は、温室効果ガス排出量全体の6.8％を占めるHFCsが69.6％増加していることがあげられます。
- 森林等による二酸化炭素吸収を考慮すると、4,574千t-CO₂となり、基準年度比14.0％減少となります。
- 一方、全国における温室効果ガスは、基準年度比16.8％減少でした。

表1 本市と全国の温室効果ガス排出量

（単位：【本市】千t-CO₂/年、【全国】百万t-CO₂）

		2013 基準年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2021年度増減率	
											基準年度比	前年度比
本市	二酸化炭素	5,437	4,970	4,799	4,926	4,715	4,702	4,376	4,214	4,494	-17.3%	+6.7%
		(94.7%)	(93.8%)	(93.3%)	(93.0%)	(92.3%)	(92.0%)	(91.2%)	(90.7%)	(91.0%)		
	二酸化炭素以外	307	327	344	370	393	407	422	432	444	+44.6%	+2.6%
		(5.3%)	(6.2%)	(6.7%)	(7.0%)	(7.7%)	(8.0%)	(8.8%)	(9.3%)	(9.0%)		
	合計	5,743	5,297	5,143	5,296	5,109	5,109	4,797	4,646	4,938	-14.0%	+6.3%
	森林吸収による二酸化炭素吸収	-427	-427	-427	-416	-405	-392	-384	-372	-364	-14.8%	-2.2%
全国	合計（森林等による二酸化炭素吸収を考慮）	5,317	4,871	4,716	4,880	4,703	4,717	4,414	4,274	4,574	-14.0%	+7.0%
	二酸化炭素	1,317	1,266	1,225	1,205	1,189	1,144	1,107	1,042	1,064	-19.2%	+2.1%
		(93.7%)	(93.3%)	(92.9%)	(92.5%)	(92.3%)	(91.9%)	(91.5%)	(90.9%)	(91.0%)		
	二酸化炭素以外（三ふっ化窒素除く）	89	91	94	97	99	101	103	105	106	+19.2%	+0.7%
		(6.3%)	(6.7%)	(7.1%)	(7.5%)	(7.7%)	(8.1%)	(8.5%)	(9.1%)	(9.0%)		
	合計	1,406	1,358	1,319	1,302	1,288	1,244	1,209	1,146	1,170	-16.8%	+2.0%
全国に占める浜松市の割合 （森林による二酸化炭素吸収を考慮）	森林吸収による二酸化炭素吸収	-	-55	-51	-49	-48	-47	-43	-41	-40	-	-1.2%
	合計（森林等による二酸化炭素吸収を考慮）	1,406	1,303	1,268	1,252	1,240	1,198	1,167	1,105	1,129	-19.7%	+2.1%
		0.38%	0.37%	0.37%	0.39%	0.38%	0.39%	0.38%	0.39%	0.41%	7.1%	+4.8%

※ 二酸化炭素以外：メタン、一酸化二窒素、代替フロン類

※ （ ）書き：当該年度における温室効果ガス別構成比

※ 端数処理の関係で、表内の合計値が一致しない場合や、パーセンテージが100%にならない場合がある。以下同様。

※ 全国のは「日本の温室効果ガス排出量データ（1990～2021年度）確報値」を参照。

（千t-CO₂）

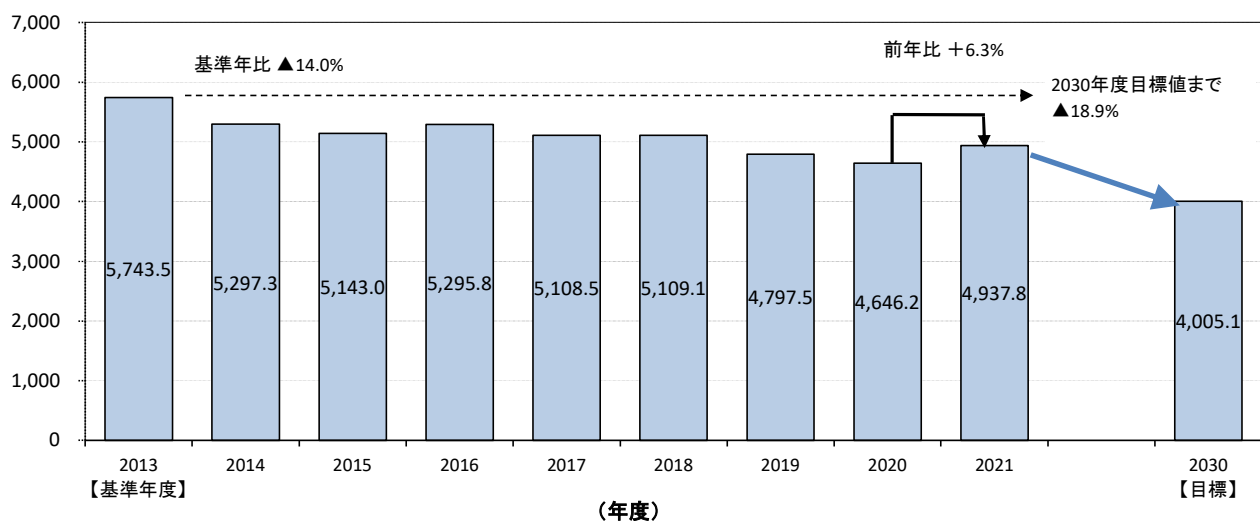


図1 本市の温室効果ガス排出量の推移

2021（R3）年度の二酸化炭素排出量（速報値）

- 部門別二酸化炭素排出量は、基準年度比で産業部門 23.6%減少、運輸部門 12.8%減少、民生・家庭部門 20.3%減少、民生・業務部門 15.1%減少、廃棄物処理部門 8.3%増加でした。
- また、一人当たりの排出量は 5.7 t-CO₂ で、基準年度比で 16.6%減少、前年度比で 7.2%増加でした。
- 一人当たりの排出量を全国と比較すると、全国の排出量は 8.5 t-CO₂ で浜松市より高い水準で、基準年度比 18.0%減少で前年度比 2.7%増加でした。

表 2 部門別二酸化炭素排出量の推移

（単位：【本市】千 t-CO₂/年、【全国】百万 t-CO₂、【一人当たり】t-CO₂）

	2013 基準年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2021年度増減率	
										基準年度比	前年度比
本市											
産業部門 （工場、農業、建設業等）	1,322 (24.3%)	1,129 (22.7%)	1,005 (20.9%)	1,028 (20.9%)	1,067 (22.6%)	1,033 (22.0%)	972 (22.2%)	958 (22.7%)	1,010 (22.5%)	-23.6%	+5.4%
運輸部門 （自動車、鉄道、船舶）	1,423 (26.2%)	1,339 (26.9%)	1,343 (28.0%)	1,349 (27.4%)	1,352 (28.7%)	1,385 (29.5%)	1,330 (30.4%)	1,227 (29.1%)	1,240 (27.6%)	-12.8%	+1.1%
民生・家庭部門 （住宅）	1,201 (22.1%)	1,117 (22.5%)	1,079 (22.5%)	1,139 (23.1%)	1,038 (22.0%)	1,084 (23.1%)	917 (20.9%)	946 (22.4%)	957 (21.3%)	-20.3%	+1.2%
民生・業務部門 （商業、事務所等）	1,403 (25.8%)	1,300 (26.2%)	1,273 (26.5%)	1,309 (26.6%)	1,157 (24.5%)	1,100 (23.4%)	1,060 (24.2%)	994 (23.6%)	1,192 (26.5%)	-15.1%	+19.9%
廃棄物処理部門 （ごみの焼却）	89 (1.6%)	85 (1.7%)	99 (2.1%)	101 (2.0%)	101 (2.1%)	100 (2.1%)	97 (2.2%)	90 (2.1%)	96 (2.1%)	+8.3%	+7.1%
二酸化炭素排出量合計	5,437	4,970	4,799	4,926	4,715	4,702	4,376	4,214	4,494	-17.3%	+6.7%
1人当たり二酸化炭素排出量	6.9	6.3	6.0	6.2	5.9	5.9	5.5	5.3	5.7	-16.6%	+7.2%
全国											
二酸化炭素排出量合計	1,317	1,266	1,225	1,205	1,189	1,144	1,107	1,042	1,064	-19.2%	+2.1%
1人当たり二酸化炭素排出量	10.3	10.0	9.6	9.5	9.4	9.0	8.8	8.3	8.5	-18.0%	+2.7%

※ （ ） 書き：当該年度における部門別構成比

(1) 各部門における二酸化炭素排出量の状況

産業部門

全排出量の 22.5%を占める産業部門は、前年度比 5.4%増加しました。農林水産・建設業が前年比 1.7%減少したものの、産業部門の約 8 割を占める製造業が前年比 7.0%増加、工業プロセスが 14.5%増加したことから、全体の排出量が増加しました。

運輸部門

全排出量の 27.6%を占める運輸部門は、前年度比 1.1%増加しました。自動車保有台数は、全体で前年度比 0.2%増加とほぼ横ばいで、その内訳では、軽自動車は前年度よりわずかに増加したものの乗用車、貨物車、バス・特殊車等は減少しました。燃料使用量では軽油が前年度を上回ったことから、排出量が増加しました。

民生家庭部門

全排出量の 21.3%を占める民生・家庭部門は、前年度比で 1.2%増加しました。排出量の 8 割以上を占める電力は前年度比 3.8%増加し、更に都市ガス、灯油も増加していることから、全体の排出量が増加しました。

民生業務部門

全排出量の 26.5%を占める民生・業務部門は、前年度比で 19.9%増加しました。排出量では 7 割を占める電力で 22.8%増加したほか、プロパンガス、軽油などで増加したため、全体の排出量が増加したと考えられます。

廃棄物処理部門

全排出量の 2.1%を占める廃棄物処理部門は、前年度比で 7.1%増加しました。この要因としては、排出量の 8 割以上を占める一般廃棄物について、ごみの焼却量がわずかに減少したものの、混入している廃プラスチック類の割合が増加したため、焼却される廃プラスチック類の量が増加したことがあげられます。